

Title	平成14年度事業報告
Author(s)	
Citation	癌と人. 31 p.43-p.47
Issue Date	2004-05-10
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23697
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

平成14度事業報告

(財)大阪癌研究会

1. 一般学術研究助成について

癌に関する学術研究を奨励助成するため、昭和61年度から実施している「一般学術研究助成事業」は、本年度で17年の歴史を重ねております。

今年度は、「悪性腫瘍の診断と治療に関する基礎的並びに臨床的研究」をテーマにしたものを対象に、全国100研究機関から公募したところ48名の応募があった。

平成15年11月25日に選考委員全員出席のもとに一般学術研究助成選考委員会を開催し、慎重に審議の結果、助成候補者12名を選出し委員長名(濱岡利之大阪大学名誉教授)で理事長に答申した。この答申をもとに平成15年12月10日理事会で審議のうえ、答申のあった12名を助成金交付対象者とし、1人当たり500千円の交付を決定した。

なお、助成対象者は「別表1」のとおりである。

2. 癌シンポジウム・講演会等の開催経費の助成について

癌の予防・診断及び治療に関する研究の連絡・提携の促進を図り、癌の医療の進歩普及に貢献するため、本財団の主たる事業の一つとして平成9年度から実施している「癌シンポジウム・講演会等の開催経費の一部助成事業」については、癌シンポジウム・講演会等の代表者から助成申請のあったものを、癌シンポジウム・講演会等の奨励助成に関する選考委員会で審議し、審議結果について委員長名で理事長に答申され、さらに理事会で慎重審議のうえ27件に助成した。

助成した27件の内訳は「別紙2」のとうりであるが、その内の数件について研究成果報告をもとに、その概要を紹介すると次のとおりである。

(1) 消化器癌化学療法研究会 (代表: Jaffer·Ajani)

2002年11月21・23日米国オーランドにおいて、Dr.J·AjaniをChairmanとして、欧米・アジア諸国の専門家100名が一同に会し、新しい化学療法の治療体系に関して討論がおこなわれた。

消化器癌領域においては、未だ標準的治療レジメンと誰もが認めるものがなく、毎年のように目新しいレジメンが照会されている。特に、日本発の経口5-Fu系薬剤 (UFT, S-1, Capecitabine), CPT-11 (イリノテカン), オキサロプラチンが注目を浴びmain streamの中にある。

また、さらにtaxen系薬剤の導入で少なくとも奏効率は向上し、median survivalは延長してきている。

これらのcombinationによってsurvivalの延長につながり、そして手術後の補助療法として役立てば幸いであり、この研究会の成果は意義あるものであった。

(2) 第9回日仏癌会議 (代表: 田口鐵男, J·P·Armand)

2002年10月23日パリ市においてフランスが当番で開催され、フランス側14名、日本側14名がそれぞれ報告し盛んな討論がなされた。一般参加は日仏併せて約30名であった。

日仏双方において開発中の癌化学療法剤について、基礎から臨床試験にわたって広範な意見の交換と討論がなされた。また、臨床試験のあり方について建設的な意見が交換され有意義で

あった。

なお、本会議は今後も継続して定期的に開催することとなっている。

(3) 第6回アジア臨床腫瘍学会の国際会議（代表：Jin-Pok Kim）

本会は当初2003年6月10～13日に開催予定であったが、SARS問題で延期のやむなきに至り、同年11月16～19日にソウルにおいて開催され、海外（欧米）からの招聘講演者を含め約650名の参加があり、3日間にわたり盛大に行われた。

アジア各国においても次第に各種悪性腫瘍の発生率が著名に増加しその対応におわれているが、地域的に癌腫別発生や、医療技術の普及程度が異なることから、アジアが一体となって同一プロトコールによる臨床試験の実施は難しく、欧米諸国と肩を並べるには、日本・韓国・台湾などの果たさなければならない課題があまりにも大きく、本会の今後の活動が期待されることである。

なお、今回は2006年北京において開催されることになった。

(4) 癌治療における椎茸菌糸体抽出物の有用性検討会（代表：螺良英郎）

当検討会は9施設の参加のもと、毎年4月と12月の年2回大阪で開催し、いわゆる健康食品としての癌治療領域における本剤の役割について検討を進めている。

- ① LEM（椎茸菌糸体抽出物）の転移抑制効果に関する免疫的検討
- ② LEMのin vitro免疫能因子に及ぼす影響に関する検討
- ③ LEMの癌患者治療に際しての免疫学的影響ならびにQuality of Lifeに及ぼす影響等に関するデータの蓄積しつつあり、今後も継続して検討会を進めていく予定である。

(5) OPRT研究会（代表：落合 匠）

本研究会は5-FU系薬剤の大腸癌術後補助化学療法における個別化治療の可能性を検討するために組織され、14施設20名の出席のもと検討会を開催し、5-FU同化代謝酵素の一つであるOrotate Phosphoribosyl Transferase（OPRT）の意義について活発に討論することができた。

現在、5-FU代謝酵素ではThymidilate Synthase（TS）あるいはDihydropyrimidine Dehydrogenase（DPD）が国際学会の場においても、その意義が討論されているが、我々は新規の代謝酵素であるOPRTに注目しその臨床的意義を検討しているが、現時点では結論に達していないが5-FU系薬剤投与の予測因子の一つとして有用であることが明らかにされつつある。

なお、今後も引き続き本研究を継続することとなっている。

3、癌の知識普及活動について

本財団の会誌「癌と人」の第29号を刊行し、全国の癌研究機関の研究者をはじめ、一般市民向けに主に関西を中心とした地方公共団体の健康管理センターや福利施設、及び、賛助会員等に無償で配布し、癌に対する正しい知識の普及活動に鋭意努力した。

平成14年度「一般学術研究助成金」助成対象者

氏 名	所 属 機 関	研 究 テ ー マ
北 中 明 (37歳)	香川医科大学医学部 臨床検査医学	リンパ系腫瘍に対するPI 3-キナーゼ活性化 を利用した新規治療法開発のための基礎的 検討
織 谷 健 司 (42歳)	大阪大学大学院医学系研 究科	骨髄抑制作用が少ない新規インターフェロ ン様サイトカインLinitin: 新しい癌治療薬としての臨床応用
鳥 越 俊 彦 (42歳)	札幌医科大学医学部 病理学第一講座	癌特異的に発現する細胞死抑制蛋白に対す る免疫応答の解析と癌免疫療法の研究
丹伊田 浩 行 (36歳)	名古屋市立大学大学院医 学研究科	G2/M期 checkpoint における Chk1 の生体内 機能の解析
福 井 浩 司 (38歳)	大阪大学医学部附属病院 消化器内科 (分子制御内 科学)	ヒト肝細胞癌における ephrin-B1 発現の腫 瘍血管新生及び転移・浸潤への関与に関す る検討
岡 田 尚 巳 (36歳)	自治医科大学分子病態治 療研究センター	ハイブリッドウイルスベクターを用いた癌 に対する新規遺伝子治療システムの開発
中 島 利 博 (37歳)	聖マリアンナ医科大学難 病治療研究センター第三 部門	RNAヘリケースA複合体機能異常として発が ん機構の解析
藪 田 紀 一 (31歳)	大阪大学微生物病研究所	静止期特異的に発現する新規遺伝子TIGAIの 機能解析
横 島 誠 (39歳)	大阪大学大学院生命機能 研究科個体機能学・医学 系研究科病理病態学	核内レセプターによる抗癌剤耐性関連遺伝 子の発現誘導機構の解析
宍 戸 知 行 (34歳)	奈良先端科学技術大学院 大学バイオサイエンス研 究科細胞増殖学教室	チロシンリン酸化酵素が生理的基質を触媒 する機構の解析
高 橋 考 太 (37歳)	久留米大学分子生命科学 研究所	トリコスタチンAに超感受性を示す異数体生 成モデル酵母株 mis 6 の遺伝的相互作用因子 の系統的探索
舩 廣 善 和 (31歳)	九州大学大学院歯学研究 院口腔保健推進学講座	サイトカインシグナル抑制因子 SOCS-3 と 細胞周期調節因子 DP-1 の相互作用による細 胞癌化制御機構の解析

別表 2

平成14年度「癌シンポジウム・講演会等助成費」助成対象会議等

(単位：千円)

シンポジウム・講演会等名	申請者	助成金額	備考
短腸症候群研究会	坂本純一	475	
前立腺肥大症治療の経済効率に関する研究会	吉田正貴	1,900	
腎癌の予後因子解明に関する研究会	平尾佳彦	9,500	
胃がん・大腸がんなど消化管がん化学療法研究会	古河 洋	18,825	
阪神地区乳癌集学的治療に関する検討会	河野範男	1,900	
関東・甲信越地区バイオケミカルモデュレーションを中心とした乳癌治療に関する検討会	木村盛彦	1,900	
月山癌セミナー 新しい癌治療を拓く智慧	井口 潔	1,000	
中国・四国地区婦人科癌（卵巣癌）集学的治療に関する検討会	河野一郎・藤原恵一	4,749.5	
消化器癌のテーラーメイド化学療法研究会	富田尚裕	2,850	
日中喉頭腫瘍研究会	古河 洋	570	
第9回大阪がん検診治療研究会	藤田昌英	50	
第9回日仏癌会議	田口鐵男 J. P. Armand	16,530	
臨床研究・生物統計研究会学術集会	坂本純一	1,900	
尿路癌治療研究会	新島端夫	38,000	
消化器癌の治療に関する検討会	田口鐵男 Y. J. Bang J. F. Bishop	23,750	
各種固形癌の治療に関する症例検討会	Larry. Norton David. Khayat	16,150	
癌治療における椎茸菌糸体抽出物の有用性検討会	螺良英郎	14,250	
中国・四国地区乳癌集学的治療に関する検討会	園尾博史	2,375	

シンポジウム・講演会等名	申請者	助成金額	備考
消化器癌化学療法研究会	Jaffer. Ajani	9,500	
アジア癌薬物療法研究会	戸井雅和	4,750	
乳癌に対する術前化学療法に関する検討会	戸井雅和	5,225	
第4回感染症フォーラム プリオン病・新興再興感染症と癌	本田武司・塩田達雄	911.7	
OPRT研究会	落合 匠	9,500	
進行胃癌併用化学療法研究会	坂本純一	9,500	
胃癌化学療法研究会	北島政樹	4,750	
第6回アジア臨床腫瘍学会の国際会議	Jin-Pok Kim	7,125	
第10回日仏癌会議	田口鐵男	4,750	
合計 (27件)		212,686.2	